

2014 年度 森林統計学 [課題 1] 前半 データの集計 1: 収集

次回の講義ではデータの集計を行う。その時に使うデータを、各自で集めておくことが今回の課題である。

- ・対象は自由だが、目的を自分なりに決めて自ら採取したデータを用いる。データは、ある真値を知るために、複数回の測定や計測をしたものとする。時系列のデータ（例えばある値点の 3 月の日平均気温 31 日分など）はこの目的には適切ではないので注意。

※ データや集計の例は教科書第 2 章の本文および練習問題を参照するとよい

注) 教科書 p.33, 問題 28 の「成人男子の血圧」、p.34, 問題 29 の「株の利益率」として並べられている数十個の数値や、p.308, 表 XII のデータ例が、集めるべきデータに相当する。集めるべきものは、例えば p.13 の表 2 や p.26 下の例 1 の表のように集計された結果ではないので注意。

- ・連続型変数でも離散型変数でもよい（用語の説明は教科書第 2 章 1. 「序説」 p.9~13 を参照）が、30 個以上（多い方が好ましい）を 1 セットとして 2 セット以上 集めておく。
 - ひとつが連続型変数ならば、もうひとつは離散型変数とするのが望ましい。
 - 50 個以上のセットを集めておくと、[課題 4] で用いるデータとして再利用できる。
 - データの数は、それぞれのセットで異なるようにするとよい（次回に行なう集計の際に、異なる階級数となるので階級数設定の練習になる）。例えば 30 個と 50 個、など。
- ・以下の項目を準備しておく。（次回の「集計」とあわせて[課題 1]として第 3 回に提出）

① 氏名・学生番号

② データの説明（何のデータか、このデータから何がわかるか、あるいは何を知らうとしたか）

※ 資料等から引用する場合には、引用元の出典を明記しておく。

引用元記載の例

- ・雑誌記事等の場合

（例 1）後藤純一（2008）傾斜地における高密度路網を活用した間伐材搬出システムの選択. 機械化林業 **658** : 1~6.

（例 2）森口敬太・鈴木保志・後藤純一・稲月秀昭・山口達也・白石祐治・小原忠（2004）林地残材を木質バイオマス燃料として利用する場合のチップ化と運搬コスト. 日本林学会誌 **86** (2) : 121~128.

- ・書籍の場合

（例 3）林野庁（2008）平成 20 年版森林・林業白書. 244pp, 日本林業協会, 東京.

- ・書籍の一部の場合

（例 4）丹下建（1999）バイオマスの測定. (森林立地調査法. 森林立地調査法編集委員会編, 博友社). 63~64.

- ・Web 資料の場合（ただしこの課題のデータ源としては勧めない）

（例 5）林野庁（2010）森林・林業・木材産業の現状と課題. 16pp, 林野庁, 東京. オンライン, (http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/genjo_kadai/pdf/genjo_all.pdf). 2010 年 3 月 19 日参照.

③ データの一覧表（採取した順に連番をつけておく）

④ データを採集した方法と、採集の際留意した点などについての説明

※提出は次回の課題とあわせて次々回とするが、必ず紙媒体（A4 用紙）とすること。

- ・データは各自控を取っておく（エクセルなどに入力しておくとなが楽）